

上士幌町

2334上田詩織

1 上士幌町概要と歴史

1.1 地名の由来

町名の由来は、アイヌ語の「シュー・オル・ペツ」（鍋を漬ける川）から。伝説によれば、昔この地に忍び込んだ盗賊が村人に見咎められ、鍋を水に漬けたままで逃げたからといわれている。

図 1 上士幌町 町章



出所：上士幌町 HP

1.2 町章とカントリーサイン

上士幌の「上」を図案化したもので、上部は大空に舞い上がる力強い翼と大地に根を下ろす若葉を意味する。下部の円形は町民の融和と団結を表し、未来に伸びゆく姿を表している。

図 2 カントリーサイン



また、カントリーサインには気球がデザインされているように熱気球のメッカとして全国的に有名なまちである。

出所：北の道ナビ HP

1.3 上士幌町の町花と町木と町鳥

上士幌町の町木はシラカバで、1981年8月3日に指定された。シラカバはカバノキ科の植物で落葉樹の一種である。樹皮が白いことからシラカバと呼ばれ、主に、長野県や北海道に多いため、それらの地域の市町村の木に指定する市町村が多い。

町花であるすずらんは、本州中部以北、東北、北海道の高地に多く自生する。北海道を代表する花として知られる。札幌市もすずらんを町花にしている。

町鳥であるカッコウはさびれたさまのことを「閑古鳥が鳴く」というが、この閑古鳥とはカッコウのことである。また、札幌市も町鳥をカッコウに指定している。

表 1 上士幌町のシンボル

町木 しらかば	町花 すずらん	町鳥 かっこう
		

出所：yahoo 画像

1.4 上士幌町の歴史

1921 年（大正 10 年）4 月 音更村（現音更町）から音更村、東士狩（ひがししかり）村、洞寒（しほさむ）村の 3 大字の各一部が分村して、川上村となる。村名の由来は音更川の川上にあることからきているようだ。同年、3 大字を行政字に再編。音更村 → 士幌、中士幌、上士幌、中音更、上音更。そして、1931 年（昭和 6 年）4 月士幌村（現士幌町）から分村し、上士幌村となった。また、1954 年（昭和 29 年）4 月町に昇格し、上士幌町となった。

幾多の波乱を乗り越え、ついに上士幌村分村の協定が成立し、手続きを経て、北海道庁の告示がおこなわれ、1931 年(昭和 6 年)4 月 1 日上士幌村が誕生した。新村は、面積 43.5 方里(662 km²)で、母村士幌の 4 倍近く、戸数 1,011 戸、人口 5,499 人であり、農耕地、畑 3,551ha、宅地 37ha、山林 437ha、原野 6,416h ほどであった。新村の村長には、西足寄村長市田清之が発令赴任してきたそうだ。役場職員に 8 名が任命になり、4 月 1 日の開村式は、村内の有志と職員が集って仮庁舎で行われたが、職員同志がお互いの顔も知らず開庁式ではじめて村長を知ったということだった。

2 上士幌町の位置・地勢・気候

2.1 位置

面積 695.87 km²、東経 143° 北緯 43° に位置し、東西 18.2km 南北 48km 海拔 280m である。

図 3 上士幌町の位置



出所：上士幌町 HP

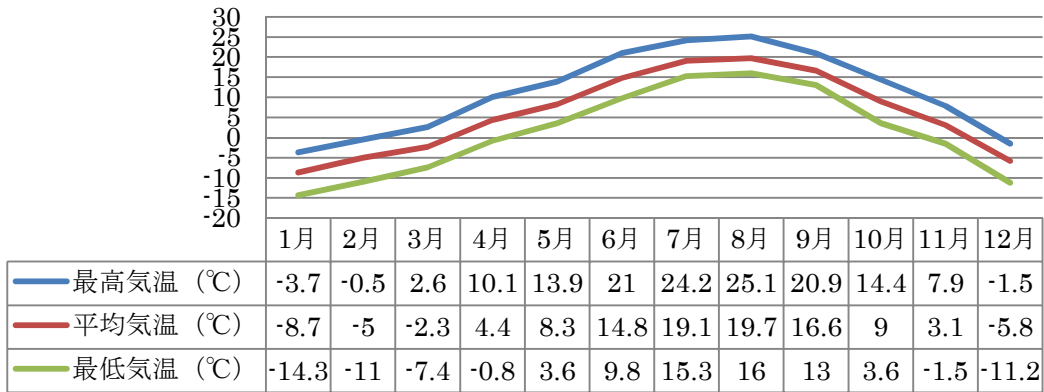
2.2 地勢

上士幌町は、十勝平野の北端、大雪山国立公園の東山麓に位置し、高山、森林、河川、湖沼、農耕地といった地勢を有する自然豊かな地域で、南北に長い地形。南部は平野が広がり、畑作地帯となっている。北部は山岳地帯、国道273号三国峠（1,139m）を通じて上川地方と接し、多くの山岳を有する。

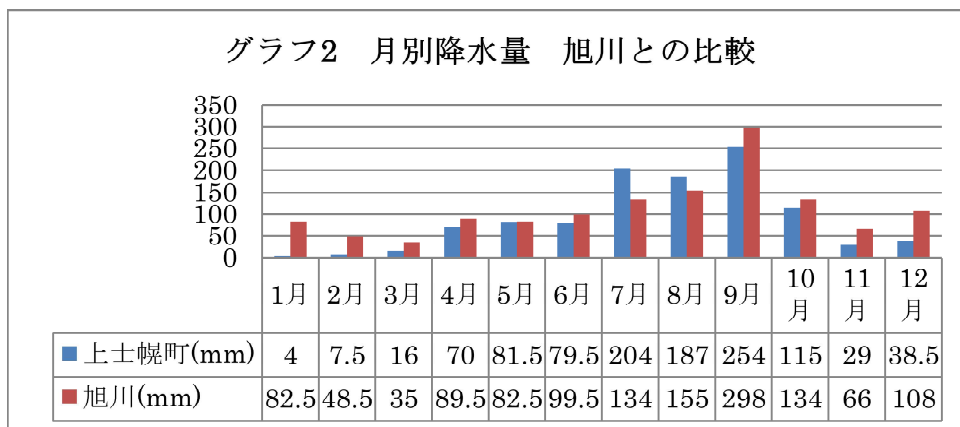
2.3 気候

上士幌町は北海道の中心部に位置しているため、冬は低温の内陸性気候である。年間平均気温は11.2℃と冷涼で、夏期の最高気温が25.1℃、冬期の最低気温が－15.3℃と年較差が大きく、年間降水量も915mm と比較的少ないといった内陸性気候を有している。

グラフ1 月別気温



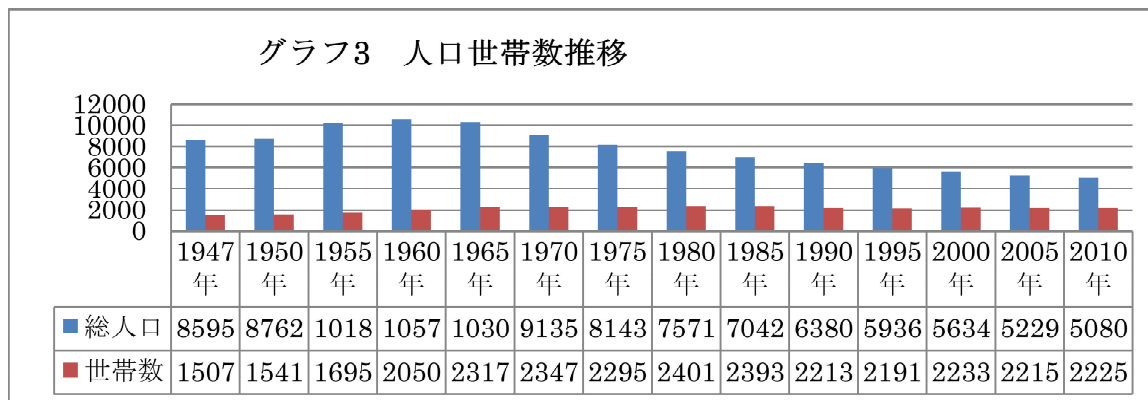
出所：気象庁 HP より著者作成



出所：気象庁 HP より著者作成

3 人口世帯数推移

上士幌町は、明治40年に安村治高丸による開拓から始まり1931年に士幌村から分村、町制の施行（1954年）、糠平ダムの完成（1955年）を経て町の発展に伴い人口も増えた。しかし、糠平ダムの完成以降、人口は年々減少し、高齢化も進行している。1985年からの20年間で1813人減少し、特に少子高齢化の傾向が強く、年少人口が5割弱の減少率を示しているのに対し、高齢人口は7割弱の増加率を示している。



出所：気象庁 HP より著者作成

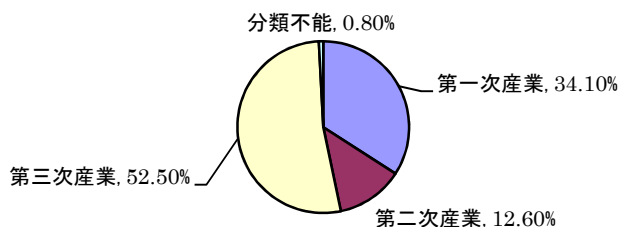
4 産業

4.1 上士幌町の産業

上士幌町では、農業、林業、鉱工業、商業、観光などの産業が発展している。産業別労働人口を見ると、農業、サービス業、卸売・小売・飲食業、建設業、製造業などに従事していることがわかる。

上士幌町は約 2,596 人が従事しており、中でも第三次産業の就業人口が最も多く、産業別人口で見ると、第一次産業の就業者数が 885 人で全体の 34%、第二次産業の就業者数は 328 人で全体の 12.6%、第三次産業就業者数が 1362 人で全体の 52.5%と第三次就業者数が全体の半数を超えている。第一次産業は農業と林業、第二次産業は製造業、建設業、第三次産業は卸売業、小売業、運送・通信などが挙げられる。産業別では農業が基幹産業となっている。

グラフ4 産業別就業人数（15歳以上）



出所：総務省統計局〔国勢調査〕より著者作成

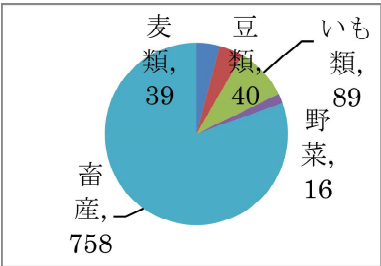
4.2 上士幌町の農業生産額

上士幌町では主にジャガイモや大豆・小豆・いんげん豆などの豆類が栽培されている。また近年では畑作 4 品目の輪作や耕畜連携による交換耕作・麦稈と堆肥の交換などにより

地力維持を図っている。

近年、農業粗生産額は増加し、右の円グラフからも分かるように、特に畜産の生産額は継続的に増加し続けている。しかし、担い手の減少は著しく、農家人口は最近5年間で約3割減少している。一方で、経営規模の拡大が年々進み、一戸あたりの耕地面積は41.8haと北海道全体の平均（20.2ha）、全国平均（2.2ha）を大きく上回る。

グラフ 5 農業生産額（2011）



出所：わが町わが村より著者作成

4.3 クリーン農業の取り組み

東大雪山の麓の冷涼で比較的病害虫の発生が少ない気候を活かし、上士幌町では、町内の酪農家から出る堆肥ほかの有機物を利用した“土づくり”に努め、一丸となって農畜産物の「品質・安全への取組み」を行っている。2006年には、白菜・キャベツの化学肥料、化学農薬を削減するなどの、「YES！ clean・北のクリーン農産物表示制度」を導入している。

4.4 十勝ナイタイ和牛

上士幌町をイメージできる言葉として「ナイタイ原牧場」から引用された。ナイタイとはアイヌ語で”奥の深い沢”という意味があるようだ。「十勝ナイタイ和牛」の称号が与えられるのは、上士幌町で生まれ育った4・5等級の牛のみ。飼料は町内産乾草と道内産稲から、ビタミンCを添加した肥料飼育を与えるなどの様々な工夫を施し、非常に高い肉質を保持している。

画像 1 ナイタイ牛



出所：上士幌町役場

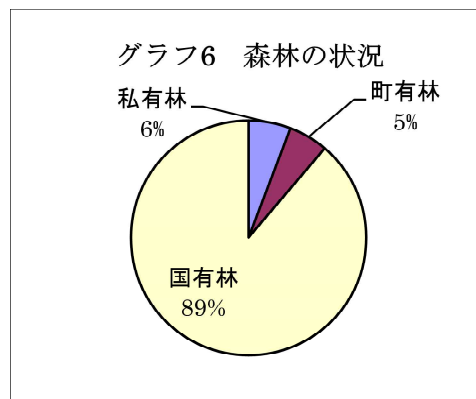
表2 特産品

豆製品	ミルクジャム	はちみつ
上士幌町産の豆を煮豆・ドライ缶などに加工して提供している。	自然の恵みたっぷりの放牧牛乳とグラニュー糖から作り上げている。	自然豊かな十勝の花々を始めとした純国産のハチミツが有名

出所：上士幌町 HP

4.5 上士幌町の林業

上士幌町の森林面積（53,397ha）は総面積（69,587ha）の 77%を占めており、森林に恵まれた環境にある。森林面積の内訳は、国有林 47,349ha（89%）、町有林が 2,853ha（5%）、私有林が 3,195ha（6%）を占めている。この森林のうち 81.2%が天然林、12.8%が人工林で、樹種割合は、75～80%が針葉樹、15～20%が広葉樹となっている。



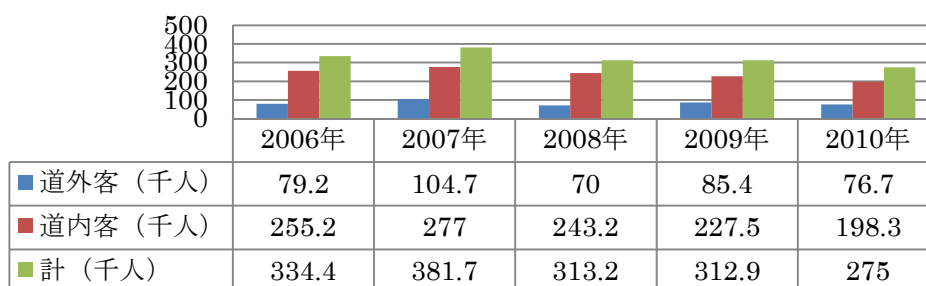
出所：農林水産省 HP より著者作成

5 観光

5.1 上士幌町の観光入込客数

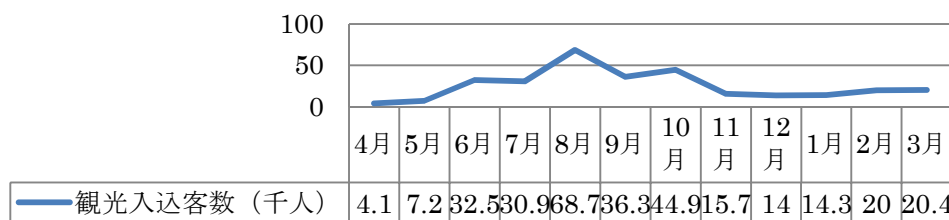
下のグラフより過去 5 年間のデータを見てみると、道外客よりも道内客のほうが多い傾向にあるといえる。また、2009 年度の観光客総数は 312900 人で 2010 年度は 275000 人と減少傾向であることが見て取れる。また、月別にみると、夏、特に 8 月に観光客が多く、冬に減少している。これは毎年 8 月にバルーンフェスティバルなどのイベントが行われるからだといえる。

グラフ7 観光入込客数推移



出所：十勝管内総合振興局データより著者作成

グラフ8 観光入込客数 2011



出所：十勝管内総合振興局データより著者作成

5.2 ナイタイ高原

「ナイタイ川」をアイヌ語で“ナイ・エタイエ・ペツ”と言い、「奥の深い沢」という意味と言われている。

ナイタイ高原は、日本一広い、総面積約 1,700ha(東京ドーム 358 個分)の公共牧場で、牛の放牧をすることができます。ときどき野生の鹿も現れる、自然いっぱいの高原牧場であるこれは国営事業によって 1972 年に完成、現在は上士幌町が運営している。

ナイタイ高原牧場は、乳牛の 6 ヶ月以上の低月齢牛を飼い主より預かり育成し、授精させ妊娠牛として分娩間近になってから飼い主に戻すという、育成牛預託専門の牧場だ。夏場は広大な草地で放牧し、冬は 7 棟ある畜舎で飼育する。夏は約 250 頭ずつに分けられた 11 群ほどの牛の群れがのんびりと草地を歩く姿が見られる。

画像 2 ナイタイ高原



出所：上士幌町 HP

画像 3 旧国鉄士幌線 アーチ橋梁群

5.3 旧国鉄士幌線 アーチ橋梁群

市街地から糠平、十勝三股の山岳森林地帯を南北に貫く国道 273 号に並行して所々に見かける、かつての国鉄士幌線で使われたコンクリート造りのアーチ橋がある。まるで古代ローマ時代の水道橋を思わせる高架橋は、鉄道橋としての活躍の時代を終え、今は東大雪の開拓の歴史を伝える近代産業遺産として、その姿を見せている。中でも



出典：上士幌町 HP

タウシュベツ川に架かるタウシュベツ川橋梁（通称めがね橋）は糠平湖の水かさが増える 6 月頃から湖面に沈み始め、10 月頃には湖底に沈みます。水かさが減る 1 月頃から凍結した湖面に再び姿を現すため、幻の橋といわれている。2001 年 10 月、北海道遺産に選定された。

画像 4 バルーンフェスティバルの様子

6 上士幌町のイベント

6.1 バルーンフェスティバル

上士幌町では、1974 年(日本気球連盟発足 1973 年)に第 1 回熱気球フェス(参加機数 5 機)が開催され、1976 年の第 3 回熱気球フェス(参加機数 14 機)では、国内初の熱気球による競技会が行われた。日本選手権を 4 回開催し、冬のバルーンミーティングも盛況で、



出所：上士幌町 HP

夏の「緑の大地」と冬の「白銀の大地」という北海道ならではの素晴らしい景観を提供している。

6.2 メガ盛りキャンペーン

8月のバルーンフェスティバルと同時開催されているもので、計20店のお店が期間中に自慢のメガ盛りメニューを提供する。参加店を巡ることで上士幌町特産品やお食事券が当たるスタンプラリーに参加できる。

画像5 メガ盛り



出所：上士幌町 HP

6.3 北海道自然歩道「ひがし大雪の道」ウォーキング大会

大雪山国立公園にある「東大雪の道」は、旧国鉄士幌線の線路跡を中心に糠平湖面と周辺の緑豊かな山々の生み出す景色を楽しむ事ができ、北海道遺産に選定された旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群が点在する。イムノリゾートゴールドマーク認証も受けているこの自然あふれる道をウォーキングし、心と身体の花康づくりを目指す。

<参照ホームページ一覧>

- ・上士幌町役場HP <http://www.kamishihoro.jp/>
- ・十勝総合振 <http://www.tokachi.pref.hokkaido.lg.jp/ts/tss/move/toukei/index.htm>
- ・上士幌町史
http://www.tokachi.pref.hokkaido.jp/d-archive/sityousonsi/kamishihoro_sonotanosangyou.html
- ・農林水産省 <http://www.maff.go.jp/>
- ・気象庁 <http://www.jma.go.jp/jma/index.html>
- ・北の道ナビ <http://northern-road.jp/navi/>
- ・わがまち・わがむら <http://www.machimura.maff.go.jp/machi/map/01-01/index.html>
- ・国勢調査 <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/index.htm>